

園評価の結果について

学校法人北邦学園
認定こども園いちい幼稚園・保育園

令和5年度に実施した認定こども園いちい幼稚園・保育園の自己評価の結果の概要は、次のとおりです。

建学の精神 『自然から学ぶ』

1 本園の教育目標

◎ 思いやりのある子 ◎ 考える子 ◎ たくましい子

【各学年のねらい（年間）】 年齢ごとに基本的な考え方を記述しています

【評価】

- A：成果を上げている
- B：ある程度成果を上げている
- C：もう少し努力が必要である
- D：改善が必要である

年 齢	年間のねらい
0歳児	保育教諭との触れ合いを通して安心した気持ちで過ごし、 いろいろなものに興味をもって遊ぶことを楽しむ
1歳児	いろいろな遊びや活動を通して、保育教諭や友達と一緒に過ごす楽しさを感じる
2歳児	いろいろな遊びや活動に意欲的に参加し、 保育教諭や友だちと一緒に過ごすことを楽しむ中で、自分なりに気持ちを表現する
満3歳児	（6月より）安心して園生活を送る中で、いろいろな遊びや活動に意欲的に参加し、 保育教諭や友達と一緒に過ごすことを楽しむ
3歳児	いろいろな遊びや活動に興味や期待をもって参加する中で、 自分の気持ちを言葉で表現しながら、保育教諭や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ
4歳児	様々な遊びや活動に意欲的に参加する中で、 いろいろな友達に関心や思いやりをもち、気持ちを伝え合いながら関わることを楽しむ
5歳児	様々な遊びや活動に自発的に取り組む中で、 友達の姿を認め合いながら、一緒に目的に向かいやりとげる充実感を味わう
【自己評価】	
A	<p>【全体】 感染症の対応が変化し、活動内容などの制約がなくなったことから、どの年齢のクラスも園庭や近隣の公園にお散歩したり、お出かけしたりと園外保育が活発に行うことができたことで、発達段階に応じた遊びからそれぞれの成長につなげることができた。</p> <p>【0～2歳児】 季節に応じてその時期ならではの活動を行えたことで、様々な事象に興味をもちいろいろな遊びを楽しむことができた。</p> <p>【満3歳児】 行事の取り組みや異年齢児との関わりを通して安心した気持ちで園生活を過ごし、保育教諭や友達と一</p>

	<p>一緒に遊びを楽しむことができた。</p> <p>〔3歳児〕 キャラクターから誘い掛けることで活動に興味を持ち、友達との関わりにおいて言葉で気持ちを伝えながら遊ぶことを楽しんでいた。</p> <p>〔4歳児〕 子どもたちの興味に合わせた活動を取り入れたことにより意欲をもって参加する姿や、友達との関りが増えたことで相手の気持ちに気づき、気持ちを伝え合いながら遊びを進める姿が見られた。</p> <p>〔5歳児〕 子どもたちの声を受けとめながら活動を進めたことで、子どもたち同士で相談する姿や相手の意見を尊重する姿が見られ、目的を達成したことに充実感を味わう姿が見られた。</p>
--	---

2 重点的に取り組んだ目標・計画について

項 目	令和5年度における取組
新設クラスのスムーズな運営	<ul style="list-style-type: none"> 早期教育の高まりからニーズの多い満3歳クラスの開設に向けて、年少クラスの保育室の工事を春休み期間に行い、6月1日より開設することとなる。 2歳児(3号認定)クラスとも連携を取りながらスムーズな運営に取り組む。
【自己評価】	【 評 価 内 容 】
B	<ul style="list-style-type: none"> 運動会、秋祭りなどの行事にも一緒に参加し、一緒に園生活を過ごす中で年中長の在園児が自然と異年齢児に目を向けて思いやりの気持ちをもって関わる姿が見られた。 保育園部門と幼稚園部門で生活の流れが違うため、密に関わることはできなかったが、一緒に遊ぶ中で、子どもたち同士の関わりを作ったり、保育内容等は同じレベルで行えるように連携を取った。

職員の連携	<ul style="list-style-type: none"> 幼児部門においては、2号園児と新2号園児が増加傾向にあり、預かり保育に従事する職員と幼児担任が子どもに対する連携を図るためのしくみを早期に検討していく。 コードモンによる保護者からの連絡が確実に担任及び関係する職員（バス添乗者など）に伝達事項が伝わる仕組みを作る。（伝えた内容が確認できること）
【自己評価】	【 評 価 内 容 】
C	<ul style="list-style-type: none"> 保護者から聞いたことは『掲示板ボード』に名前を書き、担任への伝え漏れをなくし、預かり職員同士でもすぐに共通理解できるように行った。 電話連絡などで直接伝えられない場合は、職員室内のボードに表示し、誰でも対応ができるようにした。 コードモンでは担任への連絡漏れやバスチェックミスがあったため、担任に伝えバスチェックを行ってから確認済みにすることや、バス添乗前に改めてコードモンを確認するなど改善が必要であると感じた。 乳児部門と幼児部門の連携不足が見られたため、更なる改善が必要である。

項目	令和5年度における取組
保育環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> PEZ保育の着実な実施に向け、職員の相互理解と取り組みの趣旨やねらいの基本的な理解を深めて行く。(継続) 絵本や児童文学を基本とし、子どもたちの好奇心や考える力を育む環境構成に取り組む。また、姉妹園等の効果の挙げている取り組みを参考にするなどレベルアップを図る。
【自己評価】	【評価内容】
A	<ul style="list-style-type: none"> 日々の保育や行事の中でPEZ保育の在り方について職員同士で趣旨を確認しながら日々の保育を行っている。 今年度の園内研究で『子どもたちの想像力を発揮する環境構成について』を主題とし、導入に絵本を使用して活動を進めた。職員同士で改めてPEZ保育を確認する機会となった。 学園内の絵本×保育の実践者育成研修を通じて新たな可能性が生まれ、次年度以降に絵本を使った新たな展開が期待できる。

項目	令和5年度における取組
仕事の効率化と働きやすい職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> 新体制がスムーズに機能するよう、職員一人ひとりの目標管理と主体的で良質な保育に向けた準備において学年担任との情報交換を密にして、見通しを持ちながら効率的な業務の遂行を目指す。(管理職が意識して職員体制や勤務体制を整えていく。) 研修を受けやすい環境を整える(継続)
【自己評価】	【評価内容】
B	<ul style="list-style-type: none"> 例年以上に園内研修を行うことができたため、同じ研修を受けた保育教諭間同士で話したり、保育に生かそうとしたりする意識が向上してきている。 学年部会だけではなく日常的に業務の進行確認をしていたが、行事などが重なると見通しをもつことが難しい時期もあった。 全国ニュースでもたびたび報道された子どもへの虐待について取り上げると共に、チェックリストを使用して意識を新たにすることを設けた。

項目	令和5年度における取組
効果的な広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ホームページやLINEなどを機能的に活用し、的確な情報発信に努める。 在園児への保護者のニーズに合った情報提供を適宜進めていくと共に保護者からの意見をいただきながら、改善を図っていく。
【自己評価】	【評価内容】
B	<ul style="list-style-type: none"> ホームページやLINEを活用し、お知らせや園の様子を定期的に伝えることができた。 前年度のアンケートをもとに、バスでお迎えする保護者に活動内容がわかるボードを作成した。

3 総合的な評価結果について

【自己評価】	【理 由】
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末保護者アンケートでは、回答率が前年度を下回った。概ね高評価をいただいているものの、自由記載へのご意見では、職員の対応や文書配信などへの細かなご指摘や改善に向けてのご意見など寄せられており、個別案件については丁寧に対応するとともに、詳細を分析しながら運営に生かしていきたい。 ・ 今年度においても五つの課題に重点的に取り組んできたが、改善できていない部分もあることから、前例にとらわれず、現状に合ったやり方など柔軟に対応していくことが重要である。 ・ 9月の公開保育において、25園50名の参加をいただき、本園のPEZ保育を見ていただき、尊実情に高評価をいただいたことは大いに励みになり、職員のモチベーションアップにつながられた。 ・ 新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、保護者には制限なく子どもたちの園での様子を見ていただく機会が提供できた。マザーズデイ、ファーザーズデイの実施、マザーズティーチャーなど保護者が中心となったの活動や、年長クラスの係活動も活発に行われた。 ・ また参観日やクラス懇談会では、父親の参加者も多く見られ、保護者と保育教諭だけでなく、保護者同士の交流も進められた。 ・ 全国ニュースに取り上げられた不適切保育や園児への虐待の事例の報道がなされた際には、必ず、確認の会などで話題を提供したほか、全国保育士連盟が発行している「チェックリスト」を全職員に配布し、適切な保育の在り方について共有を図ったほか、研修などにも積極的に受講してもらった。 ・ 幼保小連携により、もみじの森小学校、もみじの丘小学校の協力を得て、5歳児クラスと5年生の交流を行うことができた。

4 今後取り組む課題について

課 題	具体的な取組み
職員の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児部門においては、2号園児と新2号園児が増加傾向にあり、預かり保育に従事する職員と幼児担任が子どもに対する連携を図るためのしくみを早期に検討していく。 ・ コドモンによる保護者からの連絡が確実に担任及び関係する職員（バス添乗者など）に伝達事項が伝わる仕組みを作る。（伝えた内容が確認できること）
保育環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ PEZ保育の着実な実施に向け、職員の相互理解と取り組みの趣旨やねらいの基本的な理解を深めて行く。（継続） ・ 絵本や児童文学を基本とし、子どもたちの好奇心や考える力を育む環境構成に取り組む。また、姉妹園等の効果の挙げている取り組みを参考にするなどレベルアップを図る。
仕事の効率化と働きやすい職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新体制がスムーズに機能するよう、職員一人ひとりの目標管理と主体的で良質な保育に向けた準備において学年担任との情報交換を密にして、見通しを持ちながら効率的な業務の遂行を目指す。 ・ 勤務時間を有効に使えるよう、管理職が意識して職員体制や勤務体制を整えていく。 ・ 各職員がスキルアップ、レベルアップを目指せるよう学べる環境を整え、積極的に研修に参加するよう促していく。（継続）

効果的な広報活動

- ホームページやLINEなどを機能的に活用し、的確な情報発信に努める。
- 在園児への保護者のニーズに合った情報提供を適宜進めていくと共に保護者からの意見をいただきながら、改善を図っていく。